

B 個別学習 (B 1)

主な学習活動

E Uに関する複数の資料を読み取り、根拠をもって自分の考えを表現する。

1 本時のねらい

イギリスのEU離脱の可否について、EUが抱える様々な課題等を根拠に、自分の考えを表現することができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

ファイル共有

短焦点プロジェクト

3 参考にしてほしいポイント

ロイロノート「共同編集モード」や短焦点プロジェクトを使い、グループの考えを可視化してクラスで共有することで、それぞれのグループの考えの相違点に気付くことができる。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	予想を立てた状態でEUに関する複数の資料を読み取り、グループで話し合い、根拠をもって自分の考えを表現する。	(短焦点プロジェクト) 資料やロイロノート「共同編集モード」での生徒のカードを拡大して提示することで、考えの可視化・共有を容易にすることができる。 (ロイロノート) 「共同編集モード」で生徒一人一人に資料を配付することで、生徒が見たい資料を選択することができる。

タブレット

+

短焦点
プロジェクト



資料を自分のタブレット端末で見ることで、より細かく視覚的に捉えやすくする。



個人の考えを表示し、クラス全体で共有する。

4 活用効果

生徒たちは、自分のタブレット端末内にある資料を読み取るに当たって、気になる部分を拡大したり、2つの資料を並べて比較したりするなど、自分に合った読み取り方を選ぶことができた。また、クラス全体で確認しながら話し合うことで、根拠を大切にしながらイギリスのEU離脱の可否について表現することができた。

5 アドバイザーからのコメント

資料を自分の端末で見ることは個の学びであり、スクリーンに提示することは全体で俯瞰することになります。個と全体が往還することで、個の考えが共有されていきます。共有は、共通性や全体の方向性であり、仮説の生成や結論に導くには、必須の機能であると言えます。(東京工業大学 赤堀侃司)

本実践のようにICTによる個別の学びと協働的な学びの連結が今後より大事になりそうです。資料の提示においては、確かな資料を提示すると同時に、生徒自身がweb上で関連する内容についても調べて互いに吟味する場面を含めていくと、情報の取り扱いに関する力を伸ばせそうです。(福島大学 平中宏典)